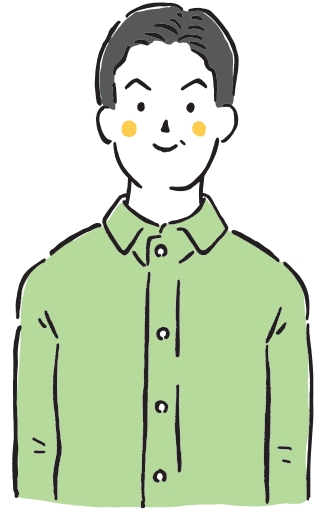


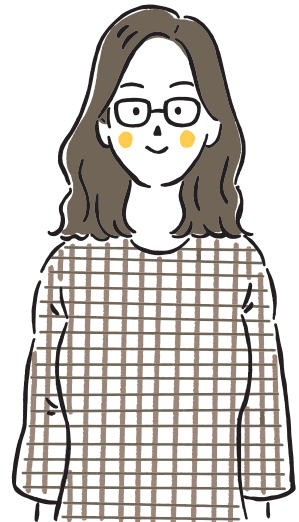
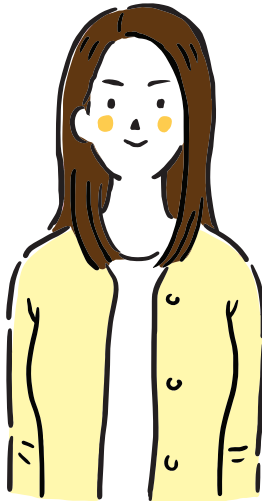
深まる  
ねっと



深まるごとつながりネットワーク

# 深まるねっと

平成29・30年度  
成果報告書



## 深草まるごとつながりネットワーク(愛称:深まるねっと)について

深草地域が「愛着を持って住み続けられるまち」となることを目指し、まちづくり活動を応援する「深まるねっと」。平成27年9月から、里山再生、地域福祉など幅広いテーマについて、ゲストによる講演などを基に、参加者同士が自由に意見交換しながら、学び考えることができる場、いわゆる「まちカフェ」事業として、開催してきました。

平成30年度には、まちづくり活動団体の課題解決を、専門家の助言等により個別に支援する「まちづくりサポート(略称:まちサポ)」を新たにスタート。これまでの「まちカフェ」事業は「まちづくりカレッジ(略称:まちカレ)」と名付け、2本立てで実施しました。

この冊子は、こうした深まるねっとの平成29年度、30年度の取組をまとめたものです。皆さんがまちづくり活動を進めるうえで、役立てていただければ幸いです。

### \\ 深まるねっとの活動の軌跡 //



#### 平成27年度

深草地域のまちづくりに関心を持つ方々の「出会いと学びの場」として、参加者同士の意見交換、稲荷山や大岩山へのフィールドワークなどを実施しました。



#### 平成28年度

「深草のみどりの保全整備から再生へ」をテーマに、深草トレイル大岩山展望所コースにある大岩神社周辺の環境整備活動を実施しました。



#### 平成29年度

「これからの地域福祉を考えよう」をテーマに、みんなが安心して暮らせる地域をどのように支えていくのかについて、ゲストのお話を基に、参加者同士で自由に意見交換しながら考える取組を実施しました。



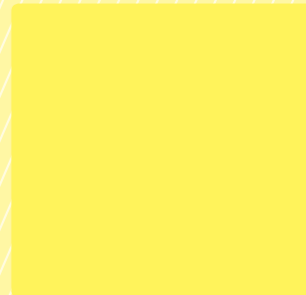
#### 平成30年度

「まちカレ」と「まちサポ」の2本立てとし、まちカレでは、「健康長寿」等の3つのトピックスを通じて、まちづくりについて学び考える取組を実施しました。

まちサポでは、個別のまちづくり活動団体の課題に対して、専門家が助言等を行うことにより解決を支援する取組を実施しました。



## 深まるねっと 2017



# 地域の担い手同士で情報交換!

開催日時：平成29年4月19日(水) 19:00～20:30

情報  
交換

第1回では、まちづくりに携わっている方、関心のある方が集まり、交流しながら、地域の現状や課題などを話し合いました。

## 名刺交換をきっかけとした交流

まずは、参加者同士で、手書きの名刺を交換。それをきっかけに、普段取り組んでいることや関心のあることなどを自由に話し合いました。「地域のホットな情報が聞けた」や「日頃接することのない方から活動のヒントを得られた」など、多くの方が交流を有意義に感じていました。

## 「えんたくん」を用いた意見交換

続いて、グループに分かれ、活発な意見交換の仕掛けとなる「えんたくん」と呼ばれる段ボール製の円卓を囲んで、地域福祉の現状や課題、展望について自由に話し合ったことを「えんたくん」に書き込みました。「近所付き合いが希薄化し、日常的に相談できる場所がない」「坂が急で買い物が大変」「元々交番だった場所をサロンにして、居場所づくりをした」「地域の行事で参加者がスタッフになってくれたケースがあった」など様々な話題が出て、参加者の中に同じ思いを持つ人がいると気付いたり、新たな知識を得たりすることができました。



深まる  
POINT

日頃接することのない様々な立場の方と交流し、意見を交換することで、お互いの刺激となり、活動のヒントを得られたり、新たなつながりが生まれたりしているようでした。様々な方と交流することの大切さが実感できる回となりました。

# 「しらべる」をもとに、地域のこれからを考える!

開催日時：平成29年6月21日(水) 19:00～20:30

地域

GUEST



龍谷大学政策学部  
井上ゼミ



伏見いきいき市民活動センター  
学生事業課

第2回は、地域に関するアンケート調査や人口予測などのデータを基に、地域の特徴を踏まえたまちづくりを考えました。

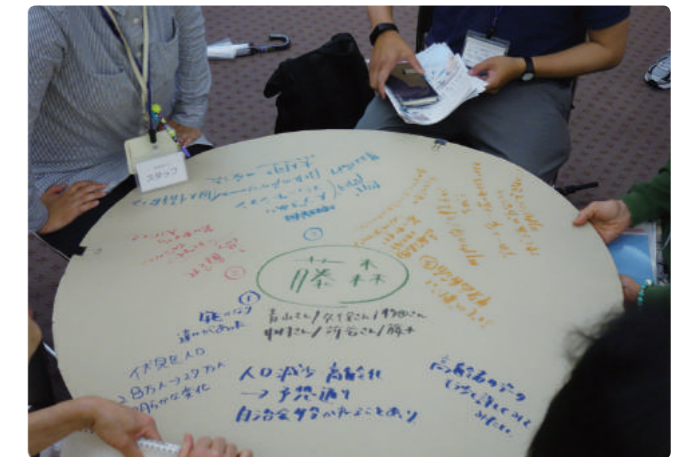
## アンケート結果から見える地域の現状と課題

井上ゼミから、深草管内5学区の町内会や各種団体、市民活動団体へのアンケートを基にした、町内会加入率などの「データ」から見える地域の現状と課題についての説明がありました。加入率については、稲荷学区は高齢化が進んでいるものの突出して高く、対して深草学区はマンションの増加などにより京都市平均69.8%よりもやや低いことなどが紹介されました。町内会については、役員の高齢化や未加入者の増加などから、若い世代の担い手育成の重要性についても語られていました。

## 地域の特徴に応じた活動が必要

学生事業課からは、平成28年度に発行した「マチノモト」というデータ集を基に、独自に算出した学区ごとの今後の人口予測や、高齢化率と18歳未満同居世帯率を用いた分析結果が紹介されました。結果からは、同じ深草地域でも、例えば、稲荷学区は他の学区と比較して高齢者が多く子どもが少ないことや、藤城学区は高齢化が進んでいるものの子どもの割合も増えているなど、学区ごとに様々な特徴があることが分かりました。

町内会や地域活動においては、こうした地域の特徴に応じて活動することが効果的ではないか、と説明されていました。



深まる  
POINT

参加者から、データやその分析結果による地域の特徴が、実感と違ったという意見もありました。効果的なまちづくり活動のためには、客観的な情報に基づく地域の分析が大切であることを学びました。

## 地域福祉ってどんなこと?

開催日時：平成29年8月30日(水) 19:00～20:30

地域  
福祉

GUEST



桐澤 夏樹さん  
伏見区社会福祉協議会



村井 琢哉さん  
NPO 法人山科醍醐こどものひろば理事長

第3回は、地域福祉とは何かについて、また、これからの地域をどのように支えていくかについて考えました。

### 地域福祉とは

桐澤さんは、地縁団体が行う地域福祉を列車に例え、特急のように一部のニーズに応え速く移動するのではなく、各駅停車のように確実に各地域に止まって、大多数のニーズに応え極力多くの人を乗せる、といった特徴があると説明されました。

また、地域福祉は制度ではない、という点も強調されました。福祉と聞くと、介護保険等の制度や、福祉の専門家や事業者が行うもの、と考えがちですが、地域に必要なサービスを地域住民が主体となって提供することも含めたもの、とのことでした。

### 子どもの貧困に対して考えるべきことは

村井さんには、地域福祉について、子どもの貧困対策の観点から話していただきました。課題を抱えた子どもの支援には、まずは子どもが楽しく参加できること、また将来、ライフステージで直面する困難にも関わり続ける姿勢が大切である、とのことでした。また、地域には地域ごとに特徴があり、団体間で連携しながら深草ならではの地域福祉の形を作ることが望ましい、といった意見もありました。「地域福祉は、特別な活動ではなく、そこにあり続ける活動」という言葉で締めくくられました。



深まる  
POINT

「地域福祉」を専門家や事業者のものとして難しく考えず、誰でも参加できる地域の活動と捉えることで、ハードルが下がり、担い手も集まりやすくなります。また、地域に必要な活動は、団体間で連携し、その地域に応じた活動を行う工夫をするとよいと学びました。

## NPOとつながってトライする地域

開催日時：平成29年10月18日(水) 19:00～20:30

NPO  
法人

GUEST



岡田 俊秋さん  
田中宮市営住宅自治会 会長



竹内 香織さん  
NPO 法人京都子どもセンター 理事長

第4回は、地域の子どもたちに向けた新たな取組をスタートされた事例を基に、地縁団体とNPOなどの地域外の団体との連携について考えました。

### どんな地域でありたいか

岡田会長には、自治会活動をもっと積極的に行いたいという悩みがあり、解決のヒントを求め、伏見いきいき市民活動センターに相談しました。市民活動センターは、どんな地域でありたいかについて自治会内で議論するよう勧め、自治会内で議論を重ねた結果、子どもに焦点を当てた取組を企画することとしました。

そこで市民活動センターは、NPO 法人京都子どもセンターや学生団体との連携をコーディネートし、自治会は担い手不足の課題にも対応できるようになりました。両団体と連携することにより、復活させた盆踊りや子どもに身近な遊びのコーナーなどで構成する「田中宮ふれあいまつり」を開催することができました。

### NPOと自治会の連携

#### 岡田会長と竹内理事長のパネルトーク

岡田会長と竹内理事長のパネルトークでは、お互いの団体がどのように連携されてきたかについて話されました。

当初、会長は理事長に対し、子どもの専門家として全て任せられると期待し、理事長は地域の人たちの主体的な活動を側面から応援したい、とずれがありました。

しかし、「まずは相手の話を聞くことに徹しよう」「相手にも都合や事情がある」と、双方がそれぞれの立場を尊重しながら対話を重ねるうちに、徐々に信頼関係が構築されていったとのことでした。



深まる  
POINT

やりたい取組があっても、担い手不足などが障害になる団体は多くあるのではないのでしょうか。そんな時は、NPOなどの地域外の団体等に力を借りることが、有効な打開策になることもあると、実例を通して知ることができました。

# 地域人材総活躍を目指す地域

開催日時：平成29年12月20日(水) 19:00～20:30



GUEST



高橋 猛さん  
藤城学区自治連合会  
会長



松井 順子さん  
藤城小学校運営協議会  
会長



高橋 宗大さん  
藤城小学校 PTA  
前会長



下司 愛さん  
藤城子ども食堂実行委員会  
代表

第5回は、地域の中で担い手をどう生み出していくのか、次世代にどう継承していくのか等を藤城学区の取組から学びました。

## 地域の人材が一体となったまちづくり

藤城学区では、学区の活動の中心に藤城小学校運営協議会があり、学区ぐるみで行うまちづくりの推進力となっています。その特徴的な取組には、「藤城の一員」という連帯意識や貢献意識を高める学区統一の山桜色ジャンパー、行事への参加者増をもたらした小学校と各種団体全体の年間行事予定の調整、各種団体の活動情報を掲載した「藤城やまざくら通信」の毎月発行と全戸配布等が挙げられます。

また、夏祭りや体育祭などの実施に当たっては、子どもにも運営側として役割を担う責任感や楽しさを学んでほしい、と「こどもスタッフ」を起用しており、将来の地域の担い手育成にもつながる取組になっています。

## 多様な組織が連携して運営する「こども食堂」

藤城子ども食堂は、農家・福祉事業者・住民有志などのネットワークにより運営しています。共働き家庭が増えている地域の子どもの孤食化を危惧した下司さんが、「みんなで御飯を食べたり、安心して過ごせる場があれば」と始め、地域の方に相談するうちに、無償での食材、会場の提供や運営への協力を得られるようになりました。本業を別に持つ多忙なスタッフが多い中で運営していくコツは、できることは率先してやる、できないことは互いに補完し合える関係の構築だそうです。

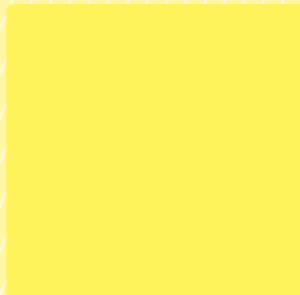


深まる  
POINT



藤城学区では、定期的な情報発信により地域の取組が見える化し、子どもやその保護者たちが関わりやすい仕組みをつくることにより、まちづくりに対する関心を高め、将来の担い手を育てる努力をされていました。

藤城子ども食堂は、様々な立場の方の協力で成り立っており、子どもが地域社会とつながることができる場となっていました。



# 深まるねっと 2018



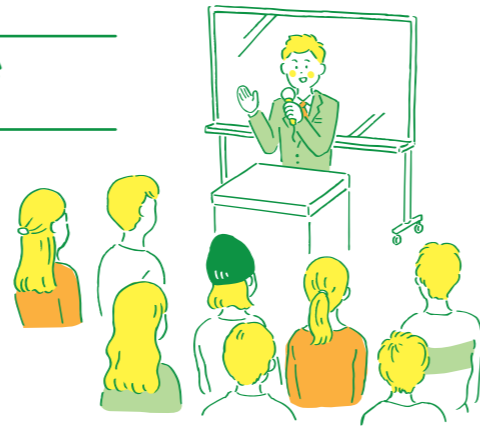
# 深まるねっと2018は2本立て!!

平成30年度の深まるねっとは、参加者がまちづくりについて学び考える「深草まちづくりカレッジ」と、まちづくり団体が専門家からアドバイスを受けることができる「深草まちづくりサポート」の2本立てで実施しました。

## まちづくりを学び考える場

### 深草まちづくりカレッジ

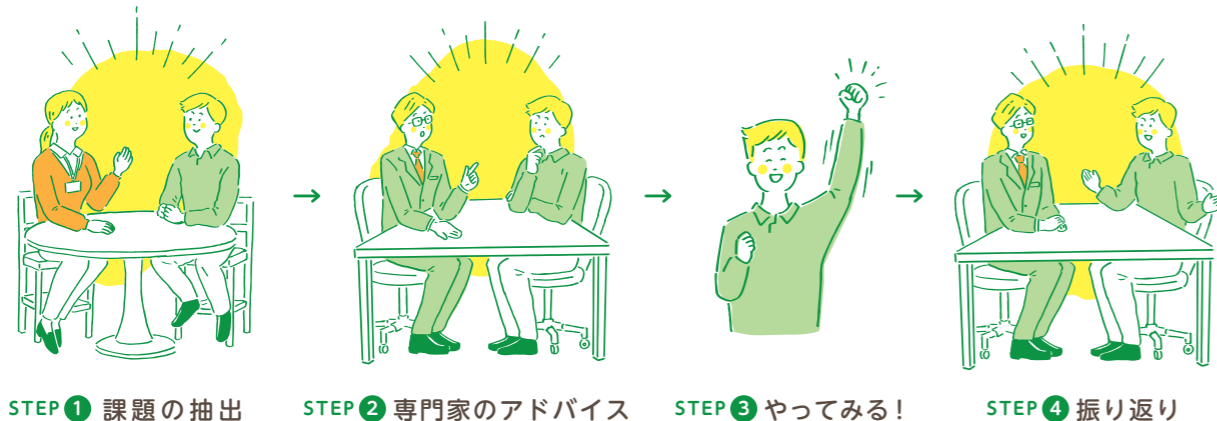
『健康長寿』『安心安全』『居場所づくり』の3つのトピックスを用意し、ゲストによる講演や、参加者同士の意見交換などのワークショップを通して、自分たちの手で行うまちづくりについて学び、考えました。



## まちづくりの家庭教師!?

### 深草まちづくりサポート

事業や運営面などの課題を解決し、次の一步を踏み出したいまちづくり活動団体のために、「専門家による個別のアドバイスを受けられる場」を設け、応募のあった団体のうち、3つの団体を対象に実施しました。



2018年  
新規スタート



# 住み慣れたまちで健やかに住み続けるために大切なことって何?



開催日時：平成30年5月29日(火) 19:00～20:30

GUEST



北野 信義さん  
稲荷学区保健協議会会長  
深草ぐるりん歩クラブ代表



細川 剛秀さん  
深草・南部地域包括支援センター  
センター長

第1回は、深草の地域特性に応じた健康づくりや認知症の方とその家族にとってやさしいまちづくりのため、個人や地域でできることを考えました。

### 深草地域の健康課題の特徴と改善

まず深草支所から、京都市国保特定健診\*の結果を基に、深草地域の健康課題の特徴について紹介しました。例えば、メタボリックシンドロームは男性ワースト1位、女性ワースト3位、高血圧は男女共にワースト2位。また、日常的な運動を定期的に行っている人は少ないものの、改善したいと思う方が多いのも特徴です。こうした課題改善のためには、ウォーキングなどの少し息が上がる程度の有酸素運動を続けることが効果的です。

次に「深草ぐるりん歩クラブ」の北野さんから、地域で取り組んでいるウォーキングと、独自に考案された「吉兆くん体操」の紹介があり、体操については参加者も実際に体験しました。日頃から歩いたり体を動かすことで、頭も体も健康になれると、実践に基づいた話をされました。

\*特定健診(特定健康診査)：生活習慣病の前段階であるメタボリックシンドロームを早期発見するための健診。40～74歳の方が対象。

### 認知症高齢者を地域で見守り住みよいまちに

地域包括支援センターの細川さんからは、「ちょっと見守りが必要かな?」と思われるような認知症高齢者の方に声を掛ける対応を学ぶ訓練「みつけておくれやす運動」の紹介がありました。高齢者が安心して住み続けられるまちにするには、日頃から認知症高齢者を気にかけて、声掛けを行える関係づくりが大切との説明がありました。



住み慣れたまちで安心して健やかに住み続けられるようにするには、地域で楽しみながら運動を継続できるような取組を行ったり、日頃からお互いを気にかけて、声を掛け合える関係を築くことが大切であることを学びました。

# 安心安全に暮らしていくために 大切なことって何？

開催日時：平成30年8月28日(火) 19:00～20:30

安心  
安全

GUEST



室崎 友輔さん  
NPO法人プラス・アーツ  
神戸事務所長



森澤 幸次さん  
深草学区自主防災会  
会長

第2回は、若い世代でも楽しく取り組める防災訓練や、地域の自主防災会の先進的な取組を学び、災害に強いまちづくりを考えました。

## 風のヒト、土のヒト、水のヒト

室崎さんが所属するプラス・アーツでは、阪神・淡路大震災の経験から、現場での教訓を基にした防災訓練の提案を行っています。若い世代がなかなか参加しない現状では、多くの方が興味を持てない何かを防災訓練に加える発想が重要と説明されました。例として、「イザ！カエルキャラバン！」は、防災訓練におもちゃを交換できるイベントを組み合わせることで、子育て世代の参加を促すことができると紹介されました。

室崎さんは、プラス・アーツのまちづくりへの関わり方のスタンスを「風のヒト」と例えます。風のヒトはその地に種（ヒント）を蒔くだけで、ずっとはそこにいられない。その種を守り育てていくためには、「土のヒト」（地域住民、地縁団体等）や土のヒトたちに様々な形で支援をする「水のヒト」（行政、志縁団体等）が重要であるとのことでした。

## 地域のアンケートをきっかけとした取組

自主防災会は、地域住民が中心となって防災活動に取り組む組織です。災害が起こった時に備えて、日頃から防災訓練や防災意識を高める活動等を行います。その一環として、以前、深草学区自主防災会の皆さんが地元の伏見工業高校の生徒と、地域で防災に関するアンケート調査を行ったところ、多くの方が「災害発生時の地域住民の安否や被災状況の確認の場所となる、地域の集合場所を知らない」ことが分かったそうです。

それをきっかけに「地域の集合場所」表示板を設置する取組が始められました。表示板作成の際には、景観に配慮して大きさや色味に工夫をし、ほぼ全ての町内で設置を完了されました。今後は、表示板の認知度を高めつつ、集合場所をどう活用していくのか、ということも考えていきたいとのことでした。



深まる  
POINT

主催者の「伝えたい」という思いが強いと忘れがちな、「参加者が楽しめる」という視点。プラス・アーツの取組は、その2つの視点を両立させることが成功の要因と学びました。また、深草自主防災会の取組は、アンケート調査等により地域のニーズを踏まえた活動を行うことで、住民の関心を高められることを実感できました。

# 多世代がつながる居場所づくり において大切なことって何？

開催日時：平成30年11月22日(木) 19:00～20:30

居場所  
づくり

GUEST



坂井 均さん  
南浜学区社会福祉協議会  
会長



学生団体 はうすまいる  
龍谷大学政策学部

第3回は、学生の活動により活性化してお年寄りの居場所づくりの取組から、多世代がつながる居場所づくりについて考えました。

## 地域で主体的に運営する居場所

坂井さんが取り組む「すこやかサロン」は、桃陵地域の方々为主体的に運営する、高齢者の方々の交流の場です。

当初は、なかなか担い手が集まらなかったようで、様々な支援団体に相談する中で、伏見いきいき市民活動センターとの相談から、学生への接点ができ、荷物運び等を手伝ってもらえるようになったとのことでした。

平成29年度からは、学生団体「はうすまいる」が、桃陵団地において、地域の居場所づくりを更に深めていくことを目的に、「桃陵 HANDS」と名付けた、野菜市やフリーマーケット等を開催しています。

坂井さんは、学生の取組を学区の自治連合会や社会福祉協議会などに紹介し、地域の理解を得られるように努めることで、学生たちがのびのびと活動できる環境をつくる役割を担っています。

## 参加者が運営側に

はうすまいると、その活動に共感する団地住民を中心に「桃陵シニアの暮らしを考える会」も開かれています。住民から、日頃の様子や困りごとなどを聞きながら、次回の桃陵 HANDS の内容等を一緒に考えます。そこで出たアイデアを取り入れることで、住民にも運営側の意識を持ってもらいやすくなり、主体的に参加してもらえるようになりました。学生たちは、高齢者の居場所づくりに貢献できていることを実感するにつれ、より積極的に参加するようになったそうです。



深まる  
POINT

様々な場所で困りごとを発信し続けたことが、学生たちとの接点に結びつきました。また、居場所づくりに協力する住民に、より主体的に参加してもらうためには、参加する住民のアイデアを積極的に取り入れることが効果的であることが学びました。

# 活きいき生活応援センター うふふ編

「活きいき生活応援センターうふふ」とは…

高齢者やその家族が、住み慣れた地域で安心して、より活きいきと豊かに暮らせるよう、社会福祉協議会や地域介護予防推進センター等と連携し、高齢者本人ができない掃除や調理、買い物等の生活支援を行っています。

同団体の  
課題…

地域に向けての広報をどうすれば効果的か、また、事業を拡大するための人材をどう募集し育成したらよいでしょうか。



今回のアドバイザー

伊豆田 千加さん  
NPO 法人みのりのもり劇場 理事長

當麻 千智さん  
MaMan KYOTO

## セッションの内容

チラシを地域内で各戸配布しても問合せが増えず、どう広報すればよいか、また一方で、業務を一人で何役もこなす状況になっていることから、どのように人材を募集して育成したらよいかについて課題に感じておられました。

アドバイザーからは、次のようなアドバイスがありました。

- 現在のチラシは、サービス一覧など、詳細であるものの一見して特徴が分かりにくい。「絶対伝えたい」ことに絞ると、読み手に届きやすくなります。
- 広報をする際、サービスを利用する方々や募集したい人材等、重点的に情報を伝えたい性別や年齢層を設定すると、どうしたらいいかを考えやすくなります。例えば、女性・20代・ひとり暮らしなどをイメージしていくと、よく立ち寄る場所や外出する時間帯などから効果的な方法を考えやすくなります。
- 課題を解決していくためには、まず実践することが大切。あれこれ迷って考えすぎず、まず一歩目を踏み出すことです。実践してうまく行かなければ、その都度修正しながら進めていくことで、解決の方向性が見えてきます。



深まるPOINT  
まちサポ編



## セッションを受けての同団体の気づき、取組

広報するに当たり、広く詳しく周知することを重視すると、かえって情報が届きにくいことがあるので、伝えるべき対象者の層を絞った方が効果的な広報ができる場合もあることを学びました。  
また、課題を解決するには、まず、始める決断が大切であることを実感できました。

# すながわしよくどう実行委員会編

「すながわしよくどう実行委員会」とは…

地域の方々が集い、食事をする事で多世代が顔見知りになり、お互いに見守り合える地域を目指し、砂川学区の子どもや高齢者などを対象に、月1回のコミュニティ食堂を開催しています。

同委員会の  
課題…

地域の団体や住民の方々に、運営側へ参加していただくためには、どうアプローチしたらよいでしょうか。



今回のアドバイザー

松村 幸裕子さん  
NPO 法人暮らしづくりネットワーク北芝

蔵田 翔さん  
NPO 法人寺子屋共育(きょういく) 轍(わだち)

## セッションの内容

同委員会では、「食堂」の担い手の不足と、食堂が地域に定着し継続していくためにも、食堂に参加している地域の団体や住民の方々に、運営側に入って関わりを深めてほしいがどうすればよいか、ということを感じておられました。

アドバイザーからは、次のようなアドバイスがありました。

- 主催者が脇目も振らず「やりすぎない」ことが、参加者の「手伝いたい」「参加したい」という気持ちにつながる場合があります。また、手伝いや参加には様々な仕方があり得ます。例えば、お金を多めに払うことも参加、後片付けに残ることも参加です。そこで、野菜を切る、コップを配る等、細かく役割分担すると、それぞれの参加者が、自分が取り組めることを見つけることができ、気軽に参加してもらいやすくなります。
- 主催者も一緒に楽しんで食事をする、会場の一体感が生まれます。気負わず、リラックスすることで、周囲から声を掛けられやすくなり、それが参加者の関わりにつながっていきます。



深まるPOINT  
まちサポ編



## セッションを受けての同委員会の気づき、取組

細かな役割分担の考え方で、気軽に手伝ったり参加してもらうことができ、食堂が運営しやすくなったと実感しました。また、一緒に食べることで、子どもが落ち着いて食事をするようになったという思わぬ効果もありました。



## 藤城学区自治連合会編

### 「藤城学区自治連合会」とは…

「藤城は一つ」「チーム藤城」として一丸となろうという目標の下、まとまりのある活動的な自治連合会です。10年後のまちの将来像に向けた指針として平成29年度に策定した「藤城学区まちづくりビジョン」を推進し、ビジョンに基づいた取組を進めています。

同自治連合会  
の課題…

藤城学区まちづくりビジョンを推進するに当たり、将来を見すえて継続的に事業を実施していくための組織づくりや担い手の巻き込み方などについて、どのように取り組んでいくのがよいのでしょうか。



今回のアドバイザー

久留宮 共樹さん  
NPO 法人きょうと NPO センター

佐伯 亮太さん  
一般財団法人明石コミュニティ創造協会

### セッションの内容

多世代での助け合いや交通問題等为解决するための事業を将来にわたり継続的に実施していきたいが、そのための組織や担い手をどのように作っていくかについて、先進事例等を通して学びたいとの希望がありました。

アドバイザーからは、次のようなアドバイスや事例紹介がありました。

- 有償で実施する事業等では組織の法人化が必要な場合がありますが、NPOや社団、財団等、いずれを選択しても設立費用や一定の事務負担があるため、必ずしも法人化がよいとは言えません。
- 自治連合会としてやりたい事業の内容が、地域にニーズがあり利用者が見込めるかどうかをまず調査する必要があります。
- 10年後のまちの将来像を描いたビジョンに加え、3～5年の中期計画をつくることをお勧めします。そうすると1年の短期計画が作りやすくなります。その短期計画を基に活動を続け、3年程度で達成度を点検し中期計画を見直していくと、ビジョンの実現を進めやすくなります。



深まるPOINT  
まちサポ編



### セッションを受けての同自治連合会の気付き、取組

他都市の様々な地域運営組織の実例を通じたアドバイスに加え、会議の運営形態や世代別意見交換会等の開催が、今後の地域運営を考えるうえで、大いに参考となりました。中期計画や、短期計画の考え方は、今後のビジョン推進に活用したいと思います。

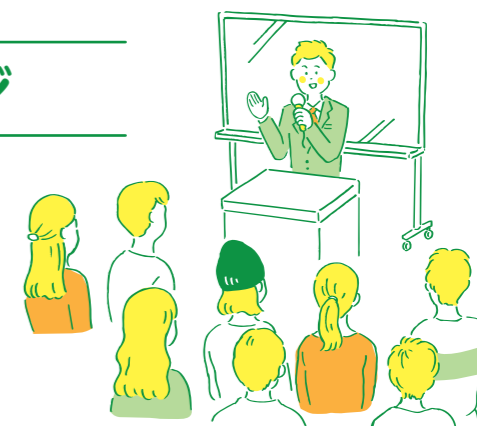
## 深まるねっと2019について

平成31年度の深まるねっと2019も、まちカレとまちサポの2本立てで実施を予定しています。

まちづくりを学び考える場

### 深草まちづくりカレッジ

「暮らしの文化」をテーマに、地域に根ざした暮らしの文化の中で身近なトピックスを取り上げ、ゲストによる講演や、参加者同士の意見交換を通して、地域の在り方やまちづくりについて一緒に考えていきます。



まちづくりの家庭教師!?

### 深草まちづくりサポート

まちづくり活動団体の課題解決を個別に支援します。支援を希望する団体を募集し、採択された団体を対象に、それぞれの団体が抱えている課題を整理し、それに応じた専門家を招いた協議の場を設け、解決策を一緒に考えます。



どちらも詳しい内容は、伏見区役所・深草支所・醍醐支所の配架チラシ、市民しんぶん伏見区版5月15日号や、深まるねっとHP・Facebookで情報を掲載しますので、ぜひお気軽に御参加、御応募ください!

深まるねっとHP ▶



Facebook ▶



深まるねっと  
2017・2018  
ファシリテーション  
グラフィック  
マチカレ

### まずは 出会って、交流

地域には  
113人76人、活動、情報  
が、あふれています

「地域福祉」  
の  
現状 課題 展望  
等を共有しよう!!

えん de  
意見交換

5人の人と出会う  
話そう (1人3分)

交換  
しよう!!

外国人  
の  
マナー  
が悪い  
問題

日常的に  
(経験的に)  
若いのが  
多い

定期的  
交流  
必要...

ボランティア  
の  
時  
隙  
活用

ボランティア  
の  
活動  
を  
続け  
たい  
で  
ある

ボランティア  
の  
活動  
を  
続け  
たい  
で  
ある

ボランティア  
の  
活動  
を  
続け  
たい  
で  
ある

ボランティア  
の  
活動  
を  
続け  
たい  
で  
ある

### 5学区へのヒアリング 見えてきた 地域の現状

深草地域コミュニティ  
調査報告

昨年8月~11月  
調査実施

地域コミュニティ  
の  
変化

地域福祉  
の  
変化

龍谷大学政策学部 井上 正志

深草支所  
の  
ヒアリング

町内会  
の  
活動  
内容

町内会  
の  
活動  
内容

町内会  
の  
活動  
内容

町内会  
の  
活動  
内容

### 深まるねっと2017 これからの地域福祉を考えよう

#### 第3回 地域福祉って なんだろ？

主催：深草支所地域力推進  
まちづくり担当

本5回中  
3回目です。

地域活動の  
視点

市民活動の  
視点

深川 光輝 氏

地域を  
対象に  
地域に  
親しみ  
ぬく

この地域に  
住む人  
の  
生活  
の  
課題

担い手  
を  
育て  
て  
いく

進行：白水 育世 氏  
深草支所担当まちづくり

お互いの背景を知り大切にしながら...

### 深まるねっと2017 これからの地域福祉を考えよう

#### 地域人材 総活躍 を目指す地域!

#### 第5回

#### パネル トーク

藤城学区 地域運営  
広げよう木あひ

多様な人材  
を  
活用  
する?

多様な人材  
を  
活用  
する?

多様な人材  
を  
活用  
する?

多様な人材  
を  
活用  
する?

多様な人材  
を  
活用  
する?

### 深まるねっと 2018

#### 深草まちづくりカレッジ

#### 第1回：住み慣れたまちで健やかに 住み続けるために大切なことは何?

2018. 5. 29

in 京都市伏見区深草支所

今日は  
4人のゲストが来ています!

予想以上の人が集まりました!

深草で長く健やかに住み続けるために  
後半の意見交換にも積極的にご参加  
下さい

白水 育世 氏  
今日のファシリテーター

加藤 誠 氏

### 土の人 その地域に任じん

### 風の人 地域に刺激 を与える tantis etc.

### 水の人 風の人が集った9人を育てる 社説 行政 etc.

### 土の人の 防災活動

魅力的な防災活動

オリジナルを

### 桃陵 シニア

準備が片付け...  
やり残して...  
準備が片付け...  
やり残して...

準備が片付け...  
やり残して...

準備が片付け...  
やり残して...

準備が片付け...  
やり残して...

準備が片付け...  
やり残して...

**ファシリテーショングラフィックとは?**

参加者の認識を一致させるために発言を記録・図式化したもの。  
狙い：議論の進行を見える化

深まるねっと各回のファシリテーショングラフィックをもっと見たい方はこちらから!

深まるねっと ファシリテーション [検索](#)





伏見区深草地域マスコットキャラクター  
深草うずらの「吉兆くん」  
きこきょう